

■ ワークショップ講師 西田司(2011年度JIA新人賞)

■ ワークショップ参加校

九州工業大学	5 名
北九州市立大学	7 名
近畿大学	7 名
九州産業大学	4 名
九州職業能力開発大学	6 名
日本文理大学(大分)	4 名
釜山大学(韓国)	8 名
東西大学(韓国)	9 名
<hr/>	
参加学生 合計	50 名

■ スタッフ 三迫 靖史 (JIA 北福岡会代表幹事)
腹巻 良樹 (相談役, 直前代表幹事)

実行委員会

杉野 友紀 (実行委員長)			
戸村 一樹	塩釜 直人	加藤 史衛	松島 逸人
永澤 正哉	高橋 雅彦	満井 輝吉	松岡 伸二

■ ワークショップ会場

黒崎プッペンハウス・ミュージアム
カムズー番街 くつろぎ広場
カムズー番街 店舗
熊手銀天街 店舗
熊手銀天街 共有スペース
熊手銀天街 熊手市場

■ ワークショップ全日程

10月12日 セミナー(場所:黒崎ブッペンハウス・ミュージアム)

タイトル : 「対話的建築のつくりかた」(ワークショップ課題発表)

講師 : 西田司、中川エリカ(オンデザインパートナーズ)



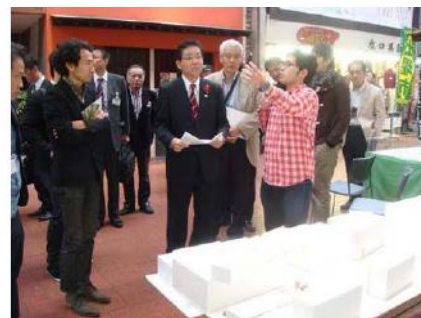
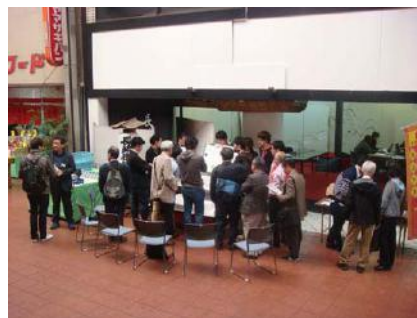
10月27日 プレワークショップ(場所:八幡西図書館)

各校が提案コンセプトを発表し、講師および商店街関係者と協議を行なう。



11月3日 ワークショップ1日目(場所:黒崎ブッペンハウス・ミュージアム他5箇所)

各校各会場にて、講師および商店街関係者等へ提案を発表し、意見を取り入れながら提案作品を完成させる。



11月4日 ワークショップ2日目(クリティーク 場所:黒崎ブッペンハウス・ミュージアム)

完成提案の発表およびクリティーク



■ ワークショップ概要（1日目、2日目）

11月3・4日両日にわたり、黒崎商店街プッペンハウス・ミュージアムにおいてワークショップが行われた。「まちにひらく、まちをひらく」をテーマに、学生が黒崎のまちに入り、まちの人の声を聞きながら「商店街の活性化」という課題にワークショップ形式で対応する。日韓の大学8校（11チーム）が参加した。

3日はその最終制作日で、4日はクリティークが行われた。

3日 建築家の西田さん、参加校の教授、商店街の方が、学生たちが作業をする各会場を巡り、意見を交わし合う。当日は北九州市長も訪れた。

4日 前日の意見も取り入れた各々の作品を発表する。クリティークでは地元の人たちも学生の発表に聞き入り、熱を入れて意見を交わしている様子が印象的だった。

■ 作品講評（発表順）

① 北九州市立大学 1



（提案）黒崎の象徴になるような、角打の枡をイメージした塔の提案。

レベル差によって景色が変化する塔からの眺望によって、商店街の隠された魅力に気づいてもらう。

（講評）

- ・ 学生らしい斬新な提案で、人を呼ぶ仕掛けとして面白い。
- ・ 上からの商店街の眺望は、暗く怖いなどのマイナスイメージを持たれないか。
- ・ 高さや眺望に対して、具体的な提案が欲しかった。

② 東西大学 1 (韓国)



(提案) 自然を多く取り入れた「楽しみが多い」空間の提案。

スロープ等を配置し、とくに高齢者にとって楽しい憩いの場となるようなパブリックスペースや展示空間を作り出す。

「隙間」「ポケット庭」が、人の流れを止め人が集まるような豊かな空間を演出する。

(講評)

- ・ 通りに波及していくような効果はあるのか？
- ・ アンケート結果を汲み取り、高齢者に特化した提案が良かった。
- ・ 高齢化の問題に対して、都市的にどのように解決できるかが課題である。

③ 近畿大学 1



(提案) 季節と自然にあふれるアーケード街の提案。

緑道や水を配した庭のような空間が訪れる人の憩いの場となる。

(講評)

- ・ 商店街内に作るには現実的ではないが、今の黒崎にはない明るく自然にあふれる憩いの空間の提案は、特に子育てをする立場の人にとって魅力的な提案である。

④ 九州職業能力開発大学

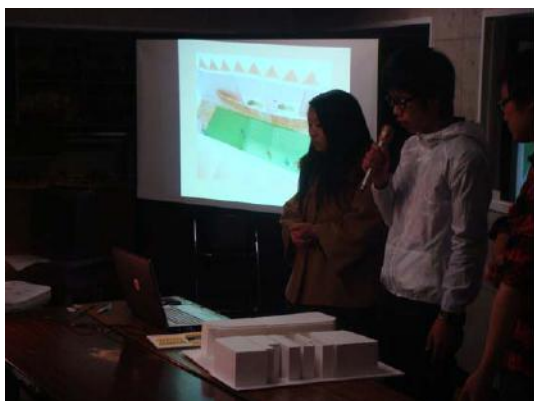


(提案) 商店街の周辺地域まで含めた「人が集まり、回遊し、歩いて楽しい都市空間」の提案。

(講評)

- ・ プレゼン資料がよくまとめられており、秀逸。
- ・ 提案された大広場は、それによって地域を分断されるように感じ、憩いの場・回遊できる都市空間として機能するのか。

⑤ 日本文理大学



(提案) 空き店舗を利用した「商店街保育園」の提案。若い家族連れや子供たちで賑わう商店街を作り出す。

可動式パーテーション「We Wall」の提案。商店街のさまざまな場所に展示スペースや休憩スペースなどとして自由にスペースを作り出すことでまちに多様な表情が生まれ、新たなコミュニケーションが生まれる可能性が生まれる。

(講評)

- ・ 商店街保育園だからこそ出来ることにより具体的な提案があるとよかった。
- ・ 「商店街保育園」と「We Wall」に関係性をもたせることができていなかったことが残念。

⑥ 九州産業大学



(提案) 寄り道したくなる商店街を提案。

空き店舗を共同利用できるスペースとし、建物をセットバックさせ敷地に余白を持たすことで何をやっているのだろう?と覗き込みたくなったり、寄り道したくなったりするような空間を演出する。

(講評)

- ・ その建物内で完結してしまっているのが残念。近隣店舗まで巻き込んでコミュニケーションを誘発させることが出来るような提案が欲しかった。

⑦ 釜山大学 1 (韓国)



(提案) 可動式階段により、多様な空間を作り出しさまざまな人が共同利用できる空間を作り出す。

(講評)

- ・ 高齢者率の高いまちにおいて階段は嫌われる存在だが、階段のメリットはなにか。
- ・ CGなどのプレゼン資料が秀逸。

⑧ 釜山大学 2 (韓国)



(提案) 40 角の「ハコ」本棚・椅子・プランターなど自由な発想で利用することで、まちに新しい風景を生み出す。

商店街の人たちが各々の使い方で「ハコ」を商店街の風景を作っていくことで、まちに一体感が生まれる。

(講評)

- ・ 技術的提案だけでなく、黒崎の商店街がこの技術をどう活用できるかを提案がなかったことが残念。
- ・ 若者らしい洗練されたイメージで、これまでとは違う新しいまちのイメージを作り出す可能性に期待できる。

⑨ 東西大学 2 (韓国)



(提案) 商店街の中にゲストハウスをつくり、留学生や若者といった外部の人を呼び込み、文化体験を通してまちの魅力を感じてもらおうという提案。

(講評)

- ・ 特別な何かではなく、地域の人が当たり前だと思っているようなものが、外部の人にとっては魅力的な文化体験になりうるという外国の学生の率直な意見が新鮮だった。

⑩ 北九州市立大学



(提案) 商店街の通路を共同所有し、樹木を育て、地域住民共同で街並みを作り上げる「Forestreet」の提案。

(講評)

- ・ 模型、プレゼン資料等がわかりやすく、秀逸。
- ・ 継続的に人を呼び込むことが出来るか。
- ・ コミュニケーションを誘発するような内と外の関係性がいまいな空間を、建築的に提案できている点が秀逸。

⑪ 九州工業大学



(提案) 学生・留学生といった若者向けのシェアハウスの提案。

街に若い人が住まうことで、若者と地域の人々が共同で、街を盛り上げる。

(講評)

- ・ 現実的にビジネスとして成り立つ可能性がある魅力的な提案である。
- ・ なぜ今若い人がまちに来ないのかの考察があると、より具体的な提案になる。

■ 総評

黒崎地区中心市街地活性化協議会

長年商店街の活性化に取り組んでいるが、なかなか難しい問題だと感じています。この建築展を通して、学生の皆さんがまちの中に入り、まちのことを考え、まちの人たちと話し合いながらやれたことは、学生の皆さんにとってもわたしたちまちの人にとっても、非常に有意義な機会となりました。

ありがとうございました。

福田展淳教授（北九州市立大学）

まちに住む人をどうやって増やすかという問題に対しては、郊外型の住宅政策ではなく、駅近く(まちなか)に住宅を増やし、駅の利用者を増やす対策が必要であると考えています。この問題は黒崎だけの問題ではなく、継続的に考えていく必要があります。学生の皆さんの提案はそれぞれ素晴らしく、とても勉強になりました。

人口減少により生活基盤が衰退していく問題に対して、ハード面・ソフト面をどう再構成していくべきかが今後重要な課題になるでしょう。ワークショップを通して、学生の皆さんやまちの方々と、問題を一緒に認識し考えることが出来た良い機会でした。

Yoo Jae Woo 教授（釜山大学）

毎年ワークショップに参加していますが、地域の方々を交えて行うプログラムは初めての試みで、参加できたことは大変有意義で、勉強になりました。

西田司さん（講師）・小泉さん

黒崎のまちのことを自分のこととして考えることによって、黒崎に「行く」という感覚から「帰る」という感覚に変わります。社会と関わりを持つ中でまちの問題や未来の問題を自分の問題としてどれだけ引き付けられるかが大切です。

今回のワークショップを通して、まちが育ち、変容していく過程を自分のこととして考え感じた体験をこれからの財産にして欲しいと思います。

また現代は、他分野で活動している人たち同士の間でも非常に身近な距離で情報を交換できる世の中になっている。建築の問題は、まちの人たちや他分野の人たちとも積極的につながることでより建築分野として可能性が広がるきっかけになる。このワークショップをとおして、学生や地域の人たちにとってこのワークショップを通して、可能性を拓けるきっかけとなることを願っています。

■ ワークショップ審査結果

西田賞	北九州市立大学2
商店街賞	九州職業能力開発大学
JIA賞	東西大学